

短報

阪南市の干潟から採集されたアカホシマメガニ

大古場 正（大阪市立自然史博物館外来研究員）・山田浩二（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

アカホシマメガニ *Indopinnixa haematosticta* (Sakai, 1934) はカクレガニ科トウヨウマメガニ属の一種のカニであり、最近、再記載と同時にマメガニ属からトウヨウマメガニ属へ帰属変更された (Komai et al., 2022)。日本固有種で、新潟県、千葉県、静岡県、和歌山県、山口県、九州に分布 (渡部、2012) しており、熊本県では絶滅危惧Ⅱ類に (熊本県、2019)、和歌山県では情報不足 (和歌山県、2022) に評価されている。

採集方法

筆者の一人、大古場は大阪府南部の干潟において貝類調査を継続している。2023 年 7 月 4 日阪南市尾崎町地先で、干潮時水深 0.5~1m となるアマモ場周囲の砂泥を浅くスコップで掬い、篩で砂泥を漉し残った生物をじっくり観察する手法を用いた。貝を主眼にした採集を通して、アカホシマメガニ 1 個体が得られ、75%のエタノールで固定保存後、ノギスで甲幅、性別を記録した (図 1)。採集個体は貝塚市立自然遊学館に保管した (KCMN-Cr899)。

検討標本

アカホシマメガニ *Indopinnixa haematosticta* (Sakai, 1934)

Data : 2023 年 7 月 4 日、阪南市尾崎町地先、大古場正 採集、

1 雌 (抱卵個体)、甲幅 6.3 mm

甲羅は横に長く、前側縁と後側縁の境は尖った形となる。ハサミ脚と第 3、第 4 歩脚は両縁に毛を密生しており、第 3 歩脚は強大である。左右両端に赤色斑があり、和名の由来となっていると考えられる。砂泥底に巣穴を掘って生息するスジホシムシモドキに共生することが知られているが、今回はスジホシムシモドキの巣穴とは関係なく出現した。

なお、本種は 2016 年 5 月 20 日に阪南市鳥取の波有手海岸においても 1 個体が採集されており、75%エタノール水溶液で液浸標本にして貝塚市立自然遊学館で保管されている。(KCMN-C r 799)。

Data : 2016 年 5 月 20 日、阪南市鳥取波有手海岸、

山田浩二 採集、1 雌、甲幅 6.6 mm



図 1. アカホシマメガニ
(メモリはmm)

本種は大阪府レッドリスト（2014）には掲載がなく、大阪府沿岸では大阪湾生きもの一斉調査において 2016 年の阪南市波有手での記録、2018 年の阪南市男里川河口での記録があるものの（大阪湾環境再生連絡会、2025）、報告は少ない。同じ大阪湾対岸の淡路島側では 2015 年に確認されている（淡路島の生き物たち 3）。なお、2023 年 7 月 4 日、阪南市尾崎町地先の干潟で、同所的にウモレマメガニ、ユムシの巣穴からラスバンマメガニが得られた。

謝辞

写真画像を見てご助言頂いた大阪湾海岸生物研究会の山下隆司氏に御礼申し上げます。

引用文献

- 淡路島の生き物たち 3. <http://uni2008.web.fc2.com/htm/umikani3.html>（2026 年 2 月 2 日閲覧）
- 熊本県（2019）レッドデータブックくまもと 2019 - 熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物 - .
- 和歌山県（2022）和歌山県レッドデータブック「2022 年改訂版」.
- 大阪府（2014）「大阪府レッドリスト 2014」.
- 大阪湾環境再生連絡会（2025）大阪湾生き物一斉調査情報公開サイト 全地点・全期間の生き物データリスト. http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/upload/life_datalist より（2025 年 12 月 30 日閲覧）
- 渡部哲也 アカホシマメガニ in 干潟の絶滅危惧動物図鑑 217pp. 2012. 東海大学出版会.
- Komai, T., Naruse, T., Yokooka, H., Taru, M., Shimetsugu, M. & Watanabe, T. (2022) Redescription of *Pinnixa haematosticta* Sakai, 1934, its transfer to *Indopinnixa* Manning & Morton, 1987, and a reappraisal of *Indopinnixa kumejima* Naruse & Maenosono, 2012 (Decapoda: Brachyura: Pinnotheridae). *Zootaxa*, 5100 (3), 361-389.